

葦

大阪発達総合療育センター広報誌



社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

発行者：社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者：企画室 松本 茂樹

Osaka Developmental Rehabilitation Center

- 肢体不自由児施設 南大阪療育園
- 重症心身障害児施設 フェニックス
- 肢体不自由児通園施設 あさしお園
- 難聴幼児通園施設 ゆうなぎ園

〒546-0035 大阪市東住吉区山坂5-11-21
 TEL 06-6699-8731 (代)
 FAX 06-6699-8134
 URL <http://osaka-drc.jp>



写真で振り返る「大阪発達総合療育センター」 設立までのあゆみ



社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長
梶浦 一郎

大阪発達総合療育センター設立までの あゆみをふりかえる

2007年3月24日、多くのご来賓のご臨席のもと、正式に大阪発達総合療育センターを開所することができました。大阪発達総合療育センターが歩んできた歴史を簡単に紹介させていただき、直接・間接的に様々なご支援いただいた方々への御礼とさせていただきます。

大阪におけるというよりも、日本の近代リハビリテーションの先駆者であった大阪市立大学整形外科学教授、水野祥太郎先生が、大阪大学教授に就任されたのが1960年でした。そのときに大阪市立大学から「小児まひ親の会」をそのまま引き継いで運営され、大阪大学に「脳性まひクリニック」の形で導入されたのがそもその始まりでした。1964年には大阪大学医学部公衆衛生学、関梯四郎教授のご指導で「大阪大学脳性まひ研究会」が発足し、そこで討議され作られた理念が、大阪市の肢体不自由児施設設立計画へと結びつき、社会福祉法人愛徳姉妹会による聖母整肢園の設立実現へとつながりました。そして聖母整肢園は1952年に新しく社会福祉法人愛徳福祉会、南大阪療育園へと施設名を変えその理念が引き継がれていきました。後年の大阪府立母子保健総合医療センター設立にもその理念は生かされています。

また、1997年から大阪市におきましては、「重症心身障害者援護施設の在り方検討委員会」を開催され、2000年にその報告書をまとめられました。

その報告に基づいて2004年に当法人が法人選定委員会の決定を受け、重症心身障害児・者施設フェニックスの開設となり今日の大阪発達総合療育センターの実現を見たわけです。

今日までの皆様方のご支援に感謝いたしますとともに、今後とも大阪発達総合療育センターの運営にご指導、ご援助賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1960年
大阪大学医学部

整形外科学教授 水野 祥太郎
公衆衛生学教授 関 梯四郎

1974年
府立母子保健総合医療センター
構想

1981年
府立母子保健総合医療センター
周産期部門

1991年
府立母子保健総合医療センター
小児部門

阪大脳性まひ

敷内・小



聖母整肢園

園長：梶浦 一郎 井上 明



聖母整肢園草創期のスタッフ



第1回ボバース講習会（1973年 東京）



あさしお園・ゆうなぎ園開設（1978年）



ボバースコース医師コース

南大阪

園長：大下 舜治 氏



中庭

北病



ひ研究会

野・江部



研究会議事録(1967年)

療育園 1970年 5月

生 廣島 和夫 紀伊 克昌



フとして働いていたシスター



障害児歯科診療 (岡山大下野教授)



ホバース夫妻来園 (1973年)



(1978年 大阪)



通園部開設

療育園 1982年

々木 哲 美延 幸保



中庭で運動会

大阪発達総合療育センター 2007年

センター長：児玉 和夫 (フェニックス園長兼務)

南大阪療育園園長：清水 信幸

大阪市立大医学部

整形外科学教授 水野 祥太郎 (1948年～1960年)

小児まひ親の会

愛徳姉妹会
聖母病院
聖母託児園
聖家族の家

阪大衛生学教授
梶原 三郎

大阪市

愛徳福祉会

大阪市重症心身障害者援護施設の
在り方検討委員会報告書

1998年～2000年

法人選考委員会決定通知 (2004年)

わかば (肢体不自由児入園施設)

わかば病棟では新しい病棟が完成して、広く、明るく、快適になりました。11月には、家族入園の部屋や手術室も完成し、長らくお待ちいただいた方にもようやく入園していただくことができました。入園のスタイルも2～3ヶ月の短期入園が増え、目標をしっかりとしぼって達成できるようになりました。

適時適温給食も始まり夕食前に時間ができたので、クラブ活動として鬼ごっこや風船バレー、ハンドボールなどを5階の地域交流スペースを利用して思いっきり遊ぶこともできるようになりました。

フェニックス (重症心身障害児(者)施設)

18年度から3階病棟が開所され25名の方々が入所されています。ショートステイを利用していただける方も増えてきています。1月には読売テレビニューススクランブルで「安心して暮らしたい～“重症心身障害者”施設が大阪に誕生」のタイトルで大きく報道されました。読売テレビのホームページからバックナンバーでごらんいただけますのでぜひご覧ください。

4月からはいよいよ4階病棟が開所になり30名近くの方々をお迎えすることになります。ショートステイを利用していただける人数も増えます。スタッフ一同、ご満足いただけるサービスが提供できるよう準備を進めています。

ふたば (肢体不自由児通園施設)

「ふたば」には就学前のお子様と保護者の方が一緒に登園され、保育とリハビリテーションを受けていただいています。現在37名が在籍されています。

保育ではお正月には風船を使った風船羽つきやすごろくを、節分には鬼遊び、ひな祭りには雛人形を作るなど季節にあわせた遊びや製作に取り組んでいます。

昨年末にはUNIVERSAL STUDIOS JAPANが来園し、楽しい歌や踊りに子どもも保護者もおおはしゃぎでした。ウッドベッカーと一緒に写真撮影では子どもたちのかわいい笑顔が撮れました。

なでしこ (重症心身障害者通所施設)

重症心身障害者通所訓練事業「なでしこ」には重い障害を持たれた方が通所されています。現在25名が登録されています。

昨年11月にセンターの最上階の暖かい陽射しがいっぱい広がるお部屋に引越しました。大きな窓越しに長居スタジアムを望み、部屋の前には大きなテラスが広がっています。利用者の方々には明るく暖かな部屋で、調理・製作・スポーツなどのグループ活動や一人一人の興味や嗜好に合わせた個別活動を楽しんでいただいています。

あさしお園 (肢体不自由児通園施設)

18年度のあさしお園は、59名の通園児が、元気に登園しました。

10月の運動会・11月の生活発表会ではそれぞれの成長ぶりを発揮!!お母さん方のダンスも飛び出し、笑いと感動の絶えない1日でした。

この4月から、あさしお園に通う子ども・地域に出る子ども・就学する子ども、それぞれの進路になりますが、それぞれの場所で、あさしお生活で身につけた力を発揮してくれることと思います。そして、何かあるごとに一致団結!!のお母さんパワーは永遠です。

周囲の人も元気にしてくれる個性豊かな子どもたちの、元気いっぱい笑顔があふれる1年間でした。

ゆうなぎ園 (難聴幼児通園施設)

ゆうなぎ園は、36名のきこえに障害がある子どもたちが大阪府下全域から通って来ます。補聴器を付けて、きこえことばの学習・練習をしています。春の遠足は、招待でポップサーカスに行きました。空中ブランコをハラハラしながら見ました。夏は、4、5歳児でデイキャンプに行きました。みんなで手打ちうどんを作りました。自分で作ったうどんはとておいしかったです。秋は、六甲山牧場に行きました。ポニーに乗ったり、羊をこわごわ触ったり、大きな牛の頭をなでたり、しました。牧場は広くとても気持ちよかったです。このような経験を通して楽しかったことをことばや手話や身振りで表現しながら、コミュニケーションする力を育てています。

聖母整肢園開設以来、当センター歯科治療にご尽力いただいている下野勉教授に感謝状を贈呈いたします。



岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
行動小児歯科学分野 教授
下野 勉

略 歴 書

氏 名	しもの つとむ 下野 勉
学 歴	昭和45年3月 大阪大学歯学部卒
学 位	昭和52年4月 歯学博士(大阪大学)
職 歴	昭和46年6月 大阪大学歯学部 助手 昭和52年12月 大阪大学歯学部 附属病院 講師 昭和53年7月 大阪大学歯学部 助教授 昭和58年6月 州立ワシントン大学歯学部 客員教授(～59年1月) 昭和59年4月～ 岡山大学歯学部 小児歯科学講座 教授 (現：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 行動小児歯科学分野) 昭和59年4月～ 岡山大学歯学部附属病院 小児歯科 科長 併任 (現：岡山大学医学部歯学部附属病院) 平成9年4月 岡山大学歯学部附属病院 特殊歯科総合治療部 部長 併任(～13年3月) 平成18年4月～ 岡山大学医学・歯学附属病院 歯科衛生士室長 併任 現在に至る

18年度の当センターで行われた学会、講習会

- ・ 第1回姿勢ケア研修会(みずほ福祉助成財団者回復助成金事業)：4月15・16日
- ・ 第3回医師など専門職のための南大阪療育園勉強会「はじめの一步」：7月1日
- ・ N I C Uからの療育支援(大阪の母子保健を考える会)：9月30日、10月1日
- ・ 日本医療保育学会近畿ブロック研修会：10月21日
- ・ 第4回医師など専門職のための南大阪療育園勉強会「はじめの一步」：10月28日
- ・ 療育多職種講習会：11月5・12・19日
- ・ 東海北陸近畿ブロック肢体不自由児療育研究会：11月9日・10日(山西記念会館)
- ・ 近肢連訓練部会研修会：11月25日
- ・ ボバースコース8週間講習会：1月14日から3月7日
- ・ 近肢連保育部会研修会：1月27日
- ・ アシスティブテクノロジー技術とコミュニケーション(大阪の母子保健を考える会)：1月27日
- ・ 精神・身体・知的障害者ケアマネジメント研修会(日本作業療法士協会)：1月13日・14日
- ・ 第2回姿勢ケア研修会(みずほ福祉助成財団者回復助成金事業)：3月17・18日



新施設建設資金協力会より

ありがとうございました。平成18年12月28日～平成19年3月6日までにご寄付(ご寄贈)いただいた方々です。

福原 忍 藤本 敦士 濱中 治 笹本 渡辺 照子 訪問介護ステーションすずらん
高槻市立療育園(募金箱) 山田 勝 M・T 成瀬 千恵子 菊地 正一 松山歯科医院
大川 敦子 増山 香奈子 新施設建設工事関係者一同 山中 一正 I.S.S.
穴田 英理子 井上 綾子 萬 典子 中前 陽子 及川 福代 加藤 公満子
関西日英協会婦人部 松永 敦子 小田原 博道 溝口 浩二 中川 克己 I・T
台湾百齡扶輪社 募金箱(受付) 大阪福祉防犯協会 早水 裕子 大阪阪南ロータリークラブ
THE RITZ-CARLTON OSAKA 国際ソロプチミスト大阪一中央 リンチ薬子 (順不同・敬称略)



立派なひな人形をいただきました。

お詫びと訂正

創刊号の4面 寄付名簿の記事中お名前が間違っていました。お詫びして訂正いたします。

- (誤) 清丹学園 理事長 岡田重憲 → (正) 青丹学園 理事長 岡田重憲
(誤) 三菱東京UFJ銀行 菱の実愛の基金 → (正) 三菱UFJ信託銀行 菱の実愛の基金

阪神タイガースの赤星選手達よりCAPをもらったよ

阪神タイガース 赤星 憲広、藤本 敦士、濱中 治、福原 忍、各選手から
カレンダー、Tシャツ、帽子など寄贈いただきました。
代表して「なでしこ」の武智大祐さんと、水谷 元幸さんに受け取っていただきました。
入園、入所、通園、外来の子どもたち、利用されている方々にお渡しいたしました。ありがとうございました。



お知らせ

南大阪療育園新施設建設資金協力会は、この3月で解散いたします。皆様のご協力を心から感謝申し上げます。
お伺いして、お一人お一人に御礼申し上げねばならないのですが、この場をお借りしてご報告と御礼申し上げます。
ありがとうございました。

今後は後援会として、足りない医療機器や、必要な設備、備品を揃えるために、センターを支えていきたいと考えておりますので、
今後ともご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

南大阪療育園新施設建設資金協力会 事務局 森本 久美子